愛媛大学教育学部紀要　教育科学　第40巻　第2号　21～32　1994

詩の記憶・理解に及ぼす視点の効果に関する研究

佐　藤　公　代
（教育心理学研究室）

（平成5年10月12日受理）

問題と目的

詩の学習方法について，あまり研究がなされていない中で，鹿内信善（1983ａｂ）は，「詩の理解は詩を構成するセグメント（部分）を結合しやすい題を設定すれば理解困難性を減ずることができる」とし，大学生を対象に，現代詩の読みの指導プログラム案を作成して，「単に詩を読むだけのものより，よく記憶しており，現代詩は面白く，美しく，読みたいものであるという方向へ情意反応が変化している」と，その効果を検証した。

本研究では，小学生(実験Ｉ)，大学生（実験II）を対象に，詩理解過程において，実験者が視点を与えるか否かが，詩の再生，理解，イメージのとらえ方に効果がみられるかどうかを比較検討する。

仮説は次の通りである。

①，再生テストにおいて，Ｉ群（視点を与える群）はII群（視点を与えない群）よりも再生率が高いであろう。

②，理解テスト（筆答，選択肢）において，Ｉ群（視点を与える群）はII群（視点を与えない群）よりも正答率が高いであろう。

③，イメージテストにおいて，Ｉ群（視点を与える群）とII群（視点を与えない群）では詩に対するイメージのとらえ方が異なるであろう。

実　験　1

方　法

1，実験期間：1992年11月上旬～中旬

2，被験者：松山市立Ｙ小学校４年生，70名，松山市立Ｈ小学校６年生，65名，計135名。

3，材料：「かとりせんこう」（矢崎節夫著，教育出版）

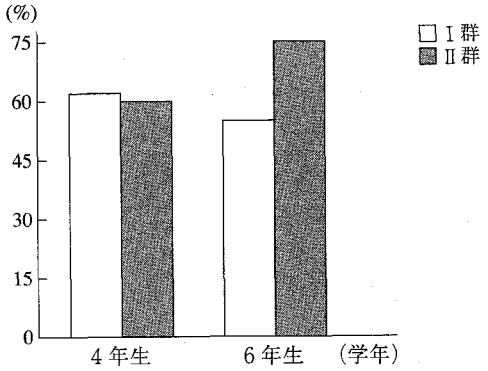
4，手続き：各学年とも，無作為に２群に分ける。

5，条件群：Ｉ群…実験者が「かとりせんこう」という視点を与える群，II群…実験者が視点を与えない群。

結果と考察

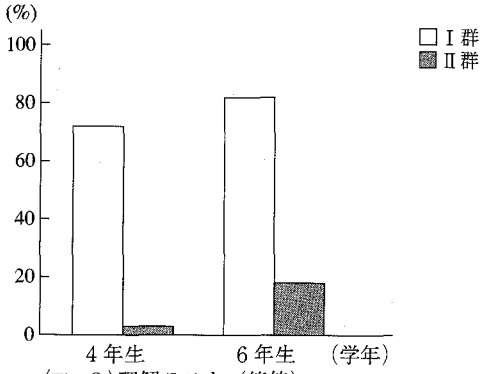
Fig. 1に再生テストにおける再生率を示す。

Fig. 1 から，4年生では有意差がみられるほどではないが，I群の方の再生率が高く，6年生では1％水準で有意差がみられ（t＝3.02），II群の再生率が高い。これは，実験者がI群に視点を与える前に，I・II群とも問題2において，被験者にそれぞれ視点（題名）をつけさせているので，それがII群の被験者の詩の再生を促進させたのであろう。実験者が視点を与えなくても被験者自身がそれぞれ視点をもてば，詩の再生は促進されるのであろう。よって，仮説①は支持されない。

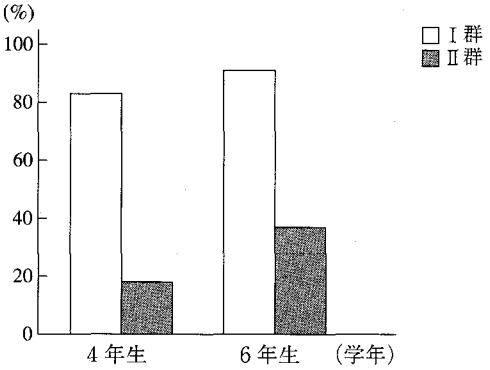


〈Fig.1〉再生テストにおける再生率

Fig. 2 に理解テスト（筆答）全体における正答率を示す。



〈Fig. 2〉理解テスト（筆答）全体における正答率



〈Fig. 3〉理解テスト（選択肢）全体における正答率

Fig. 2 から，4年生，6年生とも，I群の理解率（筆答）が高く，0.1％水準で有意差がみられる（4年生：t＝17.30，6年生：t＝12.82）。

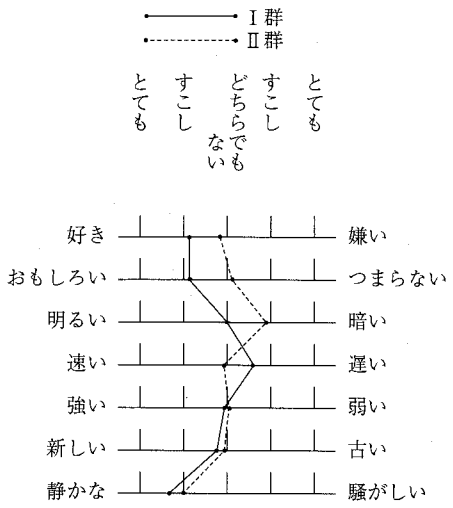
Fig. 3 に理解テスト（選択肢）全体における正答率を示す。

Fig. 3 から，4年生，6年生とも，I群の理解率（選択肢）が高く，0.1％水準で有意差がみられる（4年生：t＝12.63，6年生：t＝9.94）。よって，仮説②は支持される。

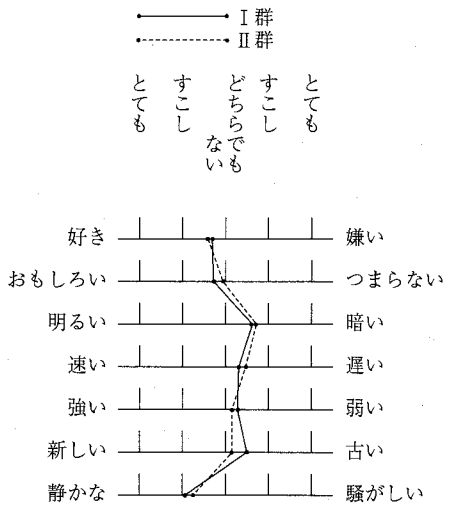
以上より，4年生，6年生ともに，実験者が視点を与えた場合，詩の再生にあまり効果がみられないものの，詩の理解には効果がみられる。それは，実験者が視点を与えなくても被験者がそれぞれ視点をもつことによって，詩の再生は促進されるが，詩の理解が促進されるには実験者が視点を与える必要があるだろう。

Fig. 4 に詩に対するイメージのプロフィール（4年生）を示す。

Fig. 4 から，4年生では「好き―嫌い」の尺度において1％水準（t＝3.26），「おもしろい―つまらない」の尺度において0.1％水準（t＝3.76），「明るい―暗い」の尺度において1％水準（t＝3.37），「速い―遅い」の尺度において5％水準（t＝2.57）で有意差がみられる。詩に対してのイメージについて，I群は「好き，おもしろい，強い，新しい，静かな」，II群は「好き，つまらない，暗い，速い，静かな」とみなしている。



〈Fig. 4〉詩に対するイメージのプロフィール（4年生）



〈Fig. 5〉詩に対するイメージのプロフィール（6年生）

Fig. 5に詩に対するイメージのプロフィール（6年生）を示す。

Fig. 5から，6年生では，どの尺度においても有意差がみられない。詩に対してのイメージについて，Ⅰ群は「好き，おもしろい，暗い，遅い，弱い，古い，静かな」，Ⅱ群は「好き，暗い，遅い，弱い，古い，静かな」とみなしている。

Fig. 4，5から4年生，6年生ともに，実験者が視点を与えた場合，詩に対するイメージのとらえ方に効果がみられる。特に，4年生にその傾向が強くみられる。これは，Ⅰ群は実験者が与えた視点を手がかりにイメージをもつが，Ⅱ群は被験者がそれぞれの視点をもち，それを手がかりにイメージをもつので，Ⅰ群と同じ詩を読んでいるにもかかわらず，Ⅰ群とは違ったイメージをもっている。よって，仮説③は支持される。

被験者につけさせた題名を3つに分類したものをTable 1 に示す。

〈Table 1〉題名における解答率（%）

項目 学年	a：詩の言葉を使っている	b：詩の言葉を使っているが発想が違う	c：詩の言葉を使っていない
4年生	50.0 (35)	15.7 (11)	34.3 (24)
6年生	44.6 (29)	9.2 (6)	46.2 (30)

（　）内は人数

Table 1 から，4年生においては，項目b（詩の言葉を使っているが発想が違う）＜項目c（詩の言葉を使っていない）＜項目a（詩の言葉を使っている）の順に解答率が高くなっている。6年生においては，項目b（詩の言葉を使っているが発想が違う）＜項目a（詩の言葉を使っている）＜項目c（詩の言葉を使っていない）の順に解答率が高くなっている。

以上より，4年生では，詩の中に使われている言葉を手がかりにして，詩を理解しようとしている傾向がみられ，6年生では，詩の中に使われている言葉から少し離れて詩を理解しようとしている傾向がみられる。

各群によって，特徴のある感想をTable 2 に示す。

Table 2　特徴のある感想

《4年生》

（I群）

・おもしろい詩。
・「かとりせんこう」を頭に思い浮かべて読んでみると読みやすかった。
・楽しかった。
・好き。
・この詩を読むといろいろなことが思い浮かんだ。
・始め意味がわからなかったが、題がわかると納得した。
・もっとこういう詩で勉強したい。

（II群）

・意味がわかりにくかった。
・おもしろくない詩
・この詩の作者は何を訴えているのかわからない。

《6年生》

（I群）

・おもしろい詩。
・「かとりせんこう」を頭に思い浮かべる前は意味がわからなかったが、思い浮かべて読むとなんとなくわかる詩。
・楽しい詩。
・「かとりせんこう」がだんだん燃えつきていく様子がよくわかった。

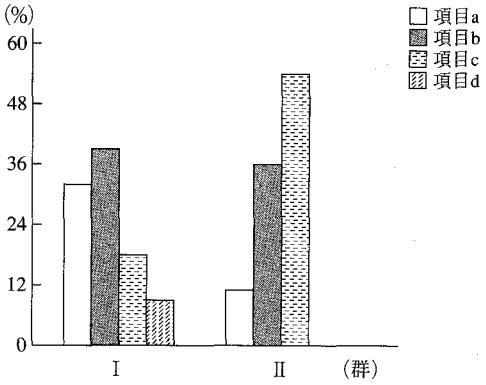
（II群）

・意味がわからない詩，難しい詩。
・花火とかマッチとか，いろいろなイメージが頭の中に入ってくる不思議な詩。
・おもしろくない詩。

Table 2 から，4，6年生とも，視点を与えられたI群は，題を与えられると，読みやすくて，おもしろく，楽しい詩ということがわかり，視点を与えられないII群は，題を与えられないので，意味がわかりにくく，おもしろくない詩だという感想をもっている。

Fig. 6に問題8の問い②における回答率（4年生）を示す。

「この詩はよくわかりましたか」（問②）という問いに対して，Fig. 6 から，4年生では，I群においては，項目d（無回答）＜項目c（わかりにくかった）＜項目a（よくわかった）＜項目b（わかった）の順に回答率が高くなっている。これは，I群において，視点を与えられていたので詩を理解しやすかったのであろう。II群においては，項目d（無回答）＜項目a（よくわかった）＜項目b（わかった）＜項目c（わかりにくかった）の順に回答率が高くなっている。これは，II群において，視点を与えられていなかったので，詩を理解するのが困難だったのであろう。

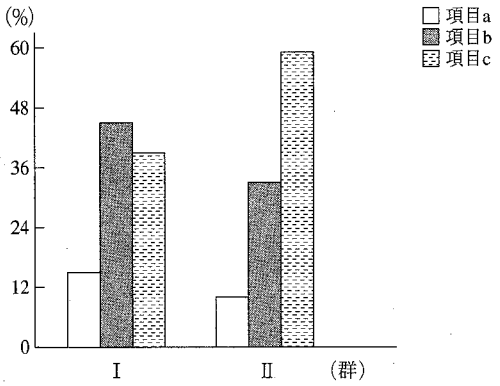


〈Fig. 6〉問題8の問②における回答率（4年生）

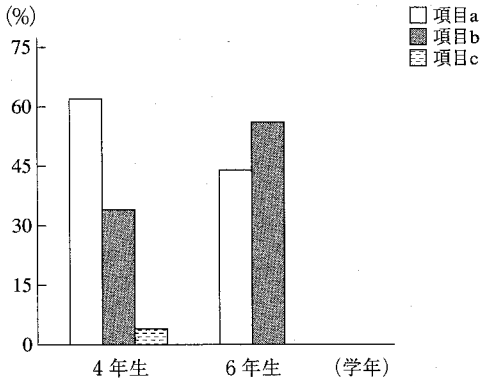
Fig. 7 に問題8の問い②における回答率（6年生）を示す。

「この詩はよくわかりましたか」（問②）という問いに対して，Fig. 7 から，6年生では，Ⅰ群においては，項目a（よくわかった）＜項目c（わかりにくかった）＜項目b（わかった）の順に回答率が高くなっている。これは，Ⅰ群において，4年生と同様に，視点を与えられていたので，詩を理解しやすかったのであろう。Ⅱ群においては，項目a（よくわかった）＜項目b（わかった）＜項目c（わかりにくかった）の順に回答率が高くなっている。これは，Ⅱ群において，4年生と同様に，視点を与えられていなかったので，詩を理解するのが困難だったのであろう。

以上より，4年生においても6年生においても，詩を理解するには視点が与えられる方がよいことがいえる。



〈Fig. 7〉問題8の問②における回答率（6年生）



〈Fig. 8〉問題8の問③における回答率

Fig. 8 に問題8の問い③における回答率を示す。

「あなたは詩を読むのは好きですか」（問③」という問いに対して，Fig. 8 から，4年生では，項目c（無回答）＜項目b（嫌い）＜項目a（好き）の順に回答率が高くなっている。6年生では，項目c（無回答）＜項目a（好き）＜項目b（嫌い）の順に回答が高くなっている。

以上より，4年生までは，詩を読むことを好意的にとらえているが，6年生になると，好意的にとらえなくなる傾向がみられる。

Table 3 に「それはどうしてですか」（問④）という問いに対しての理由を示す。

Table 3 「それはどうしてですか」（問④）という問いに対しての理由

《4年生》

（問い③で「好き」と答えた人）

・いろいろな発想をしていたりして楽しいから。
・普通の本と違って本当に見た感じがするから。
・おもしろいから。
・いろいろなことや人の思っていることがわかるから。

（問い③で「嫌い」と答えた人）

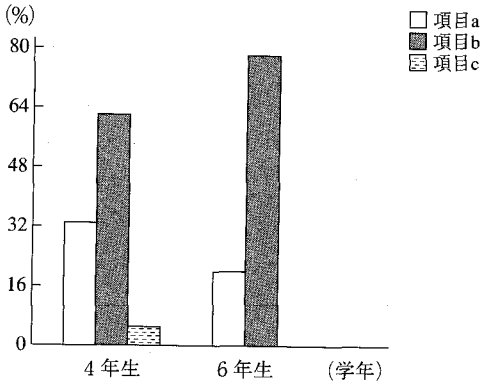
・読むのがめんどくさいから。
・おもしろくないから。

《6年生》
（問い③で「好き」と答えた人）
・おもしろいのがあったりするから。
・文章表現とかよくわかるし，作った人の気持ちも考えられておもしろいから。
・いろいろな表現があるから。
・短いので読んだものを覚えやすいから。
・詩を読んでいるうちに，この詩に書いてあることが想像できるから。
・詩を読んでいろんなことを思い浮かべられるから。
・詩を書いた人の気持ちがどんな気持ちだったかわかるから。

（問い③で「嫌い」と答えた人）
・つまらないから。
・意味がよくわからないから。

Fig. 9 に問題8の問い⑤における回答率を示す。

「あなたは詩を書くのは好きですか」（問⑤）という問いに対して，Fig. 9 から，4年生では，項目c（無回答）＜項目a（好き）＜項目b（嫌い）の順に回答率が高くなっている。6年生でも，項目c（無回答）＜項目a（好き）＜項目b（嫌い）の順に回答率が高くなっている。また，6年生においては，4年生よりも項目b（嫌い）の回答率が高くなっている。



〈Fig. 9〉問題8の問⑤における回答率

以上より，4年生においても6年生においても詩を書くことを好意的にとらえていない傾向がみられる。また，学年があがるとその傾向がより強くみられるようである。

Table 4 に「それはどうしてですか」（問⑥）という問いに対しての理由を示す。

《4年生》
（問い⑤で「好き」と答えた人）
・自分が作った方が楽しいから。
・短い文で，簡単に書けるから。

（問い⑤で「嫌い」と答えた人）
・めんどくさいから。
・書くことがなかなか思いつかないから。
・書き方がわからないから。
・書く機会が少ないから。

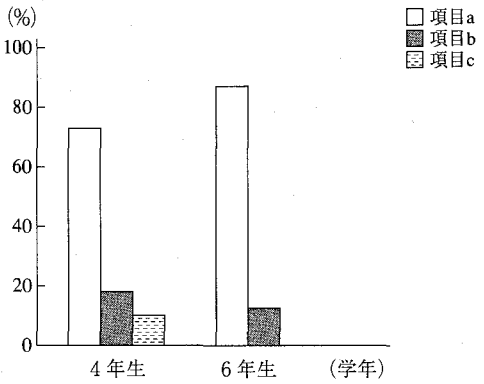
《6年生》
（問い⑤で「好き」と答えた人）
・自分の思っていることをそのまま書けるから。
・読むより自分で書いた方が一層詩が楽しくなるから。

（問い⑤で「嫌い」と答えた人）
・めんどくさいから。
・難しいから。
・言葉が思いつかないから。
・詩がうまくできないから。

Fig. 10に問題８の問い⑦における回答率を示す。

「あなたは詩を読むのと書くのではどちらが好きですか」（問⑦）という問いに対して，Fig. 10から，４年生では，項目ｃ（無回答）＜項目ｂ（書く）＜項目ａ（読む）の順に回答率が高くなっている。６年生でも，項目ｃ（無回答）＜項目ｂ（書く）＜項目ａ（読む）の順に回答率が高くなっている。また，６年生においては４年生よりも項目ａ（読む）の回答率が高くなっている。

以上より，４年生においても，６年生においても，詩を読むのと書くのでは，読む方を好意的にとらえている傾向がみられる。また，学年があがるとその傾向がより強くみられるようである。



〈Fig.10〉問題８の問⑦における回答率

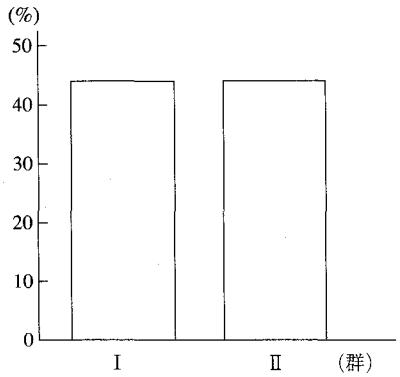
実　験　II

方　法

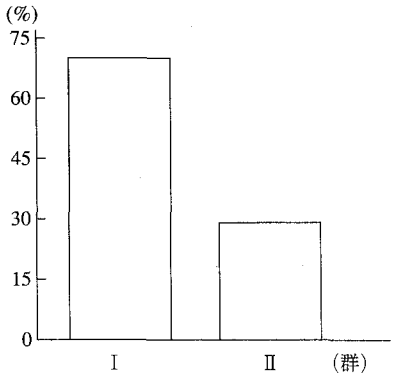
１．実験期間：1992年10月下旬～11月中旬
２．被験者：Ｅ大学教育学部132名（Ｉ群：69名，II群：63名）
３．材料：村野四郎の詩集「体操詩集」にある１編「飛込」
４．手続き：無作為に２群に分ける。
５．条件群：Ｉ群…実験者が「飛び込み」という視点を与える群。II群…実験者が視点を与えない群。

結果と考察

Fig. 11に再生テストにおける再生率を示す。



〈Fig.11〉再生テストにおける再生率



〈Fig.12〉理解テスト（筆答）全体における正答率

Fig. 11から，両群間に有意差は見られず，再生率はほぼ同じである。これは，Ⅰ群には視点を与えているが，Ⅱ群には，被験者に題名をつけているので，それが，Ⅱ群の詩の再生を促進させたのであろう。よって，仮説①は支持されない。

Fig. 12に理解テスト（筆答）全体における正答率を示す。

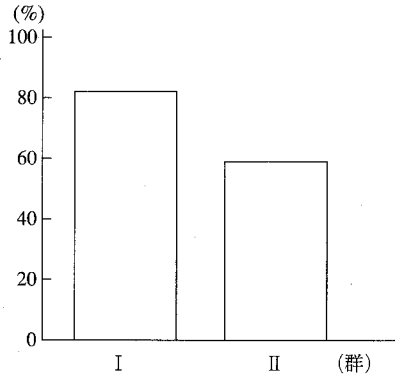
Fig. 12から，理解テスト（筆答）全体において，0.1%水準で有意差がみられる（ t =11.26 ）。正答率においては，Ⅰ群の方がⅡ群よりも高い。

Fig. 13に理解テスト（選択肢）全体における正答率を示す。

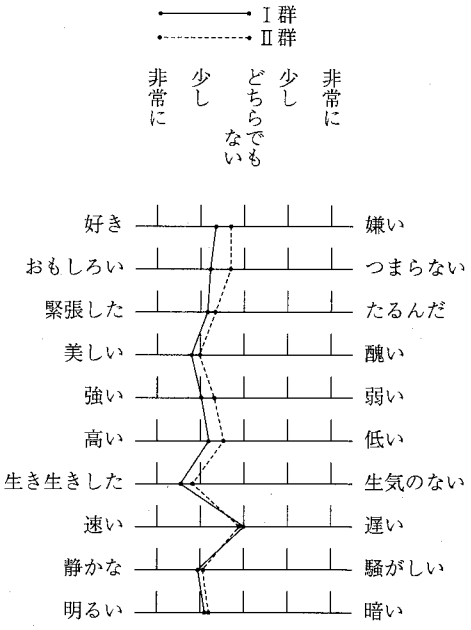
Fig. 13から，理解テスト（選択肢）全体において0.1%水準で有意差がみられる（ t =6.31)。正答率においては，Ⅰ群の方がⅡ群よりも高くなっている。よって，仮説②は支持される。

Fig. 14に詩に対するイメージのプロフィールを示す。

Fig. 14から，「おもしろい―つまらない」（ t =1.97)，「高い―低い」（ t = 2)，「静かな―騒がしい」（ t =2.56）の尺度において，5%水準で有意差がみられる。「好き―嫌い」「おもしろい―つまらない」の尺度から，Ⅰ群は詩を好意的にとらえており，その他の尺度については，Ⅰ群とⅡ群とで，イメージのとらえ方が異なっている。Ⅰ群は与えられた視点「飛び込み」（その中でも，屋外の高飛び込みのこと)」をもとにイメージをもつが，Ⅱ群は，被験者自身が，それぞれの視点をもち，イメージをもつため，Ⅰ群と同じ詩を読んでいるにもかかわらず，Ⅰ群とは違ったイメージが見受けられる。よって，仮説③は支持される。



〈Fig.13〉理解テスト（選択肢）
全体における正答率



〈Fig.14〉詩に対するイメージのプロフィール

Table 5 に被験者につけさせた題名を4つに分類して示す。

〈Table 5 〉題名における解答率(%)

項目	a：詩の言葉を使っている	b：詩の言葉を使っているが発想が違う	c：詩の言葉を使っていない	d：無解答
大学生	66.7 (88)	2.3 (3)	30.3 (40)	0.8 (1)

(　　)内は人数

Table 5 から，項目d（無解答)<項目b（詩の言葉を使っているが発想が違う）<目c（詩の言葉を使っていない)<項目a（詩の言葉を使っている）の順に解答率が高くなっている。大学生においても，詩の中に使われている言葉を手がかりにして詩を理解しようとしている傾向がみられる。

Table 6 に特徴のある感想を示す。

Table 6　特徴のある感想

（I群）

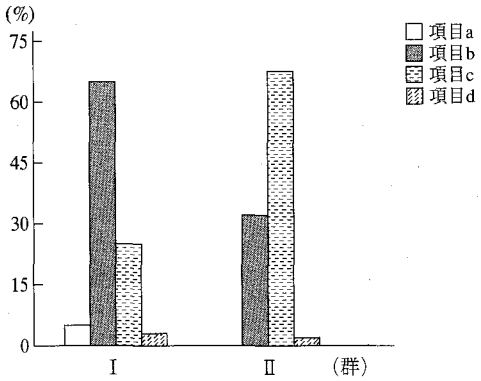
・始めは何を意味しているのかわからなかったが，「飛び込み」を思い浮かべながら読むと読みやすかった。
・蜂や花の単語が出ているだけで蜂のことと決めつけてしまう。
・目の前でいろいろな情景が鮮明に浮かんでくるようだった。
・「飛び込み」についてとわかっていたらおもしろい。
・最初間違いなく蜜蜂のことを書いていると思った。視点をかえただけで，この詩は飛び込みのことを書いてあるのが容易に想像できた。

（II群）

・よくわからない詩，難しい詩。
・いろいろな想像の仕方がある。
・詩は題名がないと全くわからない。
・題名があるとそのイメージで固定してしまうのに，ないと全く違うイメージが浮かんでくる。
・この詩がどういう情景を描いているのかを知ってから読むといい詩だと思うだろう。
・おもしろくなかった。
・作者の意図がよくわからなかった。

Fig. 15に問題8の問い②における回答率を示す。

「この詩は理解できましたか」（問②)に対して，Fig. 15から，I群においては，項目d（無回答)<項目a（非常に理解できた）<項目c（理解できなかった)<項目b（理解できた）の順に回答率が高くなっている。これは，I群においては視点を与えられていたので，詩を理解しやすかったのであろう。II群においては，項目a（非常に理解できた）<項目d（無回答）<項目b（理解できた）<項目c（理解できなかった）の順に回答率が高くなっている。これは，II群においては視点を与えられていなかったので，詩を理解するの



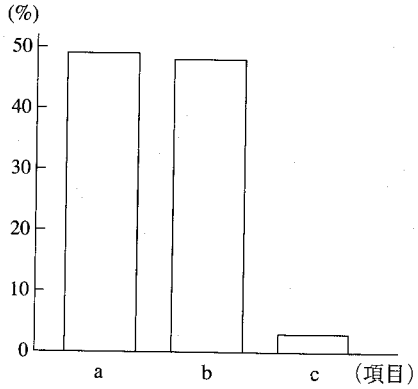
〈Fig.15〉問題8の問②における回答率

が困難だったのであろう。

以上より，大学生においても，詩を理解するには視点が与えられる方がよいといえる。

Fig. 16に問題８の問い③における回答率を示す。

「あなたは詩を読むのは好きですか」（問③）に対して，Fig. 16から，項目ｃ（無回答）を除いて，項目ａ（好き）と項目ｂ（嫌い）の間で回答率にほとんど差がみられず，項目ｂ（嫌い）の回答率が50％近くある。大学生になると，詩を読むことをあまり好意的にとらえなくなる傾向がみられる。



〈Fig.16〉問題８の問③における回答率

Table 7 に「それはどうしてですか」（問④）という問いに対しての理由を示す。

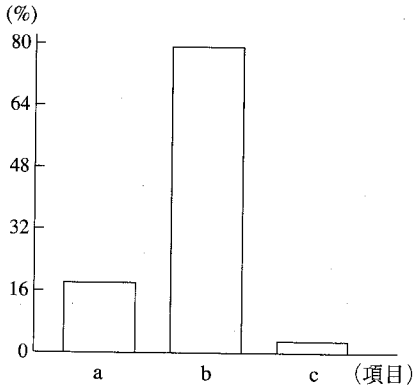
Table 7 「それはどうしてですか」（問④）という問いに対しての理由

（問い③で「好き」と答えた人）
・短い文章の中に深い意味が含まれていておもしろいから。
・自由に解釈できるから。
・自分とは違う物の見方，感じ方にふれられるから。
・表現がおもしろいから。
・感動があるから。
・共感できるから。
・比較的短いので読みやすいから。
・短い文から大きくイメージが広がっていくから。

（問い③で「嫌い」と答えた人）
・理解できないから。
・あまり読むことがないから。
・いろいろなとらえ方があるから。
・解釈が人によって違うのに教師や本によって１つに定められてしまうから。

Fig. 17に問題8の問い⑤における回答率を示す。

「あなたは詩を書くのは好きですか」（問⑤）に対して，Fig. 17から，項目ｃ（無回答）＜項目ａ（好き）＜項目ｂ（嫌い）の順に回答率が高くなっている。大学生になると，詩を書くことを好意的にとらえていない傾向がみられる。



〈Fig.17〉問題８の問⑤における回答率

Table 8 に「それはどうしてですか」（問⑥）に対しての理由を示す。

Fig. 18に問題８の問い⑦における回答率を示す。

「あなたは詩を読むのと書くのではどちら

Table 8 「それはどうしてですか」(問⑥) に対しての理由

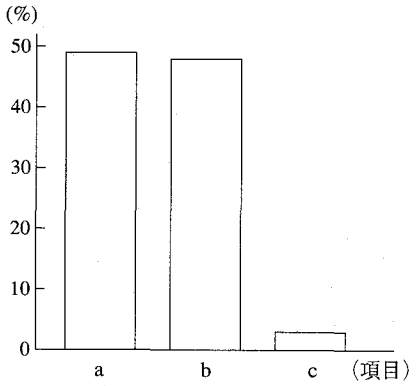
(問い⑤で「好き」と答えた人)

・自分の感情をストレートに表現できるから。
・豊かな気持ちになれるから。
・物事をいろいろな角度で見ることができるようになるから。
・普通の文章では書けないニュアンスが表現できるから。
・言葉を選ぶことで普通の文章よりも強く印象的に自分の思いをあらわせるから。
・少ない言葉で表現するのは難しいけど、表現することで，新たな感動が起こるから。

(問い⑤で「嫌い」と答えた人)

・思い通りのことを言葉で言い表わすのが難しいから。
・うまく書けないから。
・詩を書く機会があまりないから。

が好きですか」(問⑦) に対して，Fig. 18 から，項目 c (無回答) ＜項目 b (書く) ＜項目 a (読む) の順に回答率が高くなっている。大学生になると，詩を読むのと書くのでは，読む方を好意的にとらえている傾向がみられる。



〈Fig.18〉問題 8 の問③における回答率

結　　論

再生テストにおいて，4 年生と大学生とでは，有意差がみられるほどではないが，I 群の方の再生率が高く，6 年生では，1 %水準で有意差がみられ，II 群の再生率が高い。

理解テスト (筆答，選択肢) では，4 年生，6 年生，大学生ともに，0.1 %水準で有意差がみられ，I 群の理解率が高い。

イメージテストでは，4 年生と大学生において，いくつかの尺度で有意差がみられ，6 年生では全く有意差がみられない。詩に対するイメージの平均得点をみると，4 年生，6 年生，大学生ともに，視点が与えられる方が詩を好意的にとらえている。

以上から，詩の記憶には視点の効果はみられないが，詩の理解には視点の効果がみられる。

参 考 文 献

鹿内信善　1983 a　現代詩の読みの指導に関する実験的研究―指導プログラム案の作成と効果の検討―読書科学　第27巻　10―19
鹿内信善　1983 b　現代詩の読みの指導に関する実験的研究II―指導プログラムの効果の要因分析―読書科学　第27巻　121―130

付　　記

実験者の高松佳子氏，松出市立余戸小学校，松山市立双葉小学校の校長先生，諸先生，児童達，愛媛大学教育学部の皆様（順不同）に，いろいろお世話になりましたことを心より深く感謝致します。